

# たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

## 大玉ころがしがしたい。

運動会の練習が本格化し、今日は開会式と閉会式の練習をしました。今年の運動会のテーマは、『赤白心一つに全力出し切りがんばろう！』です。子どもたちも先生も心一つにしてがんばっています。保護者の皆様、ぜひ運動会に来てください、お願いします。そして、子どもたちと先生と保護者の皆様、地域の皆様の心一つになる運動会になればいいなと思っています。

3年生と4年生が体育館で『船穂ソーラン』の練習をしていて、若い先生がステージの上で懸命に踊っているのを見て、いいなあ、自分もあんな頃があったよなと思い出しました。でも、「横山は元気じゃのお。若いのはええのお。」と教頭先生から言われて無性に腹が立ち、「若くたってしんどい時はしんどいです。」と口ごたえをしたことを思い出し、職員室でその手の話はすまいと思い直しました。

今日は、大玉を作ったときの話です。そして、今年の児童会種目は大玉ころがしです。

「縦割りの全校種目は大玉ころがしがいいと思うんだけどな。」仲の良い荒木先生が相談をもちかけました。荒木先生は私より二つ年下。仕事も遊びもいつも一緒にいる気の合う仲間でした。「大玉どうするんよ。各校運動会なんだから貸してはくれんよ。」「教頭先生買ってくれんかな。」「そりゃ無理で。この前も予算が！予算が！とぼやいとったで。」「やっぱりだめか。4色で低学年2名と高学年2名でリレーをしたら、ほほえましくていいと思うんだけどなあ。」荒木先生はあきらめきれない様子でため息をつきました。なさけない横顔を見ていて、思いついたら猪突猛進のわたしは、「買ってもらえんのんなら、つくりゃあええ。」と言いました。裏山の竹を切って、割って、針金でくくって輪を作る。それを何個も作って組みたててればフレームはできる。途中までは楽勝！楽勝！。しかし、輪をどう組みたてても真球にならない。内側から紐でひっばってもだめ。割った竹の太さを同じようにしてもだめ。「どうもいかんなあ。」と言うと荒木先生「これはこれでいけるんじゃないの。右にふらふら左にふらふらと言うのも良いんじゃないの。」そうかもしれんと思い直し、新聞紙を貼りまくり、更紙を貼りまくり、半紙を貼りまくりました。ポスターカラーを塗りたくって4個の大玉が見事に完成しました。しかし、見るからに不細工で先生方は失笑し、「あの二人はねえ。」とあきれ顔。

しかし、練習で使ってみるとこれがおもろい。勝敗の行方は大玉だけが知っているといった乗りです。運動会当日も好評で、大玉は修理に次ぐ修理を繰り返し、その後6年間にわたって全校種目の地位に君臨しました。荒木先生とは、勤務する地区が離れしまったこともあってか、だんだんと疎遠になってしまいました。長く生きていくとせつない思いもたくさんします。

運動会に向け、はつらつと子どもたちのために努力する先生方をまぶしいような思いで見えています。きっと、すばらしい運動会になると思います。



※荒木先生とは仮の名前です。